



TITLE:

表紙・目次・編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・編集後記. 公共空間: 公共政策・実務の最前線を届ける情報誌 2016, 15

ISSUE DATE:

2016

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/219203>

RIGHT:

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載・二次利用はお控え下さい.

No.15 2016 年秋号

公共空間



公共政策・実務の最前線を届ける情報誌



特集

Money お金は何になるか

皆様こんにちは。「公共空間」編集委員会です。
今号のテーマはずばり「お金」です。
ものやサービスを買うためにお金を支払う、貯金する、特定の団体に寄付する、投資をする、ソーシャルゲームに課金する…お金の使い方は様々です。

では、自分の財布や口座から出て行った**お金の行方**のことを考えたことはありますか？

マイナス金利の導入、「貯蓄から投資へ」の掛け声の下に導入されたNISA などなど、お金を取り巻く環境は確実に変化しており、この環境下で生まれるお金の流れは今この瞬間も新たな「価値」を生んでいると言っても過言ではありません。

個人と同様、私たちからお金を受け取った企業、政府、あるいはNPOなどの組織にも様々なお金の使い道があります。

私たちが支払ったお金はその先で**どんな「価値」**を生むのか？本誌で扱うのはほんの一部にすぎませんが、「支払い」の**先の世界**と一緒に探訪してみませんか？

- 02 「京都大学が作る新しい『お金』と『知』の流れ」
楠美 公氏 京都 iCAP

- 08 「社会を動かす民間募金
—世界の女性が抱える問題から」
有馬 真喜子氏 国連ウィメン日本協会 理事長

- 12 「エリアマネジメントで梅田活性化
—『作る』時代から『育てる』時代へ」
植松 宏之氏 阪急電鉄 不動産事業本部

- 16 「産業金融の変革への挑戦」
植木 貴之氏 経済産業省 経済産業政策局産業資金課

- 20 「伝統を継承するために—必要なのは『お金』だけでなく『社会的意味』」
各務 亮氏 株式会社 電通 京都支社

寄稿

- 24 教授寄稿
「マイナス金利と日本経済」
翁邦雄教授 京都大学公共政策大学院

- 30 学生寄稿
「京都大学公共政策大学院での学生生活を振り返って」
志塚 司 京都大学公共政策大学院 10 期

- 33 卒業生寄稿
「新たな政党軸形成期における地方政党組織の考察—民主党地方組織の視座から—」
祐野 恵 京都大学大学院人間 環境学研究科博士後期課程

Corner Table

当大学院では、特定のテーマを持って活動するグループを「自主活動」と呼んでいます。
現在、英語議論会 Corner Table を含め 10 個の活動が行われています。



英語議論会 Corner Table は、2015 年に当時の 1 回生（10 期生）により立ち上げられた比較的新しい自主活動です。京大公共では、海外の大学と交流する機会がそれほど多くあるわけではありません。だからこそ、私たちは「学生主導で大学院の国際化に貢献すること」を大きな目標に掲げて活動を行っています。具体的な活動内容は大きく 2 つに分けられます。

1 つ目はその名の通り、毎週定期的に英語でディスカッションをすること。ここで扱うテーマは様々で、担当者は自身の興味関心に合わせて自由にテーマを設定することができます。例として、2016 年度前期には「米国大統領の広島訪問」、「女性の社会進出」、「選挙年齢の引き下げ」などを扱いました。英語での表現方法を互いに教え合うことで語学力を伸ばすだけでなく、参加者同士の意見交換を通じて、テーマに関する理解を深めることもできます。

そして私たちの活動のもう一つの大きな柱は、海外とのネットワークをつくることです。一例として、2015 年 11 月には国立台湾大学で現地学生とワンデーワークショップを行いました。日台の学生がそれぞれ「社会問題」と「国際関係」の 2 つの分科会に分かれて議論しました。社会問題チームでは、日本と台湾の共通課題である「少子高齢化」について問題を共有し、「未来の日台の社会デザイン」の提言を行いました。一方国際関係チームでは、「東アジア圏の人材環流の促進政策」の提言を行いました。海外の学生と議論する中で異なる価値観に触れ、新しい視点を得ることができました。また、ワークショップの後には、現地の学生に大学構内や夜市を案内してもらい、交流を深めることができました。

今年度も国立台湾大学、シンガポール国立大学リークアンユー公共政策大学院とのイベントをそれぞれ企画しており、現在メンバー全員で協力しながら準備を進めています。

私たちの活動はまだ 2 年目ということもあり、マニュアルのようなものが存在しているわけではありません。海外の大学とのイベントを企画する時も、カウンターパートとのコネクションを作るところから始まります。手探り状態の中で、課題が見つかるたびにメンバーで真剣に議論し、解決していくことは非常にハードではありますが、その分得られるものも大きいと自負しています。（文：吉田優）

■ 少しでも興味を持たれた方は、【代表 井上雄貴（10 期生）yuuki.jfk@gmail.com】までお願いします。

学生投稿募集中

毎号、学生からの投稿を掲載しています。
公共政策に関するものであれば、テーマは自由です。

字数と形式

3500 ～ 4500 字程度とします。

授業で作成したレポートやプレゼンテーション資料を用いていただいて
構いません（ただし、文章形式でお願いします。）

本誌は縦書きの書式であるため、数字の表記を直すなどの調整をしておいてください。

応募要件

京都大学公共政策大学院に在学中の大学院生であること。

応募方法

各号ごとに締切を設定します。編集委員にご相談ください。

その他

応募多数の場合、編集委員会による協議の上、執筆者やテーマの決定をさせていただきます。ご了承ください。

お願い

本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断転載や二次利用はお控えください。

よろしくお願い致します。

取材後記

多田「予想以上に時間がかかってしまいましたがようやく完成しました。読者の皆様におかれましては、財布から出て行くお金の行方に思いを馳せて頂ければ幸いです。」

寺田「全体のテーマ決めに紆余曲折がありましたが、問題意識がなにより大事。卒業後も公共空間での初心を忘れずにいたいです。」

中村「入学前から読んでいた雑誌に携わることができて嬉しいです。引き続き頑張っていきますので、これからも『公共空間』をよろしくお願いします！」

上野「二回目の記事でそろそろ取材に慣れてきました。今回も役所にインタビューを行い、やはりどの役所の方も丁寧で優しいと感じました。」

野村「止まることのない地域間格差と高齢化から、私は悲観的にならざるを得ません。新旧の価値観が入り混じる中、自分なりの地方への貢献の仕方を考えられればと思いました。」

高畠「完成して良かったです。志塚くんの学生論文、私自身も校正しながら考えさせられました。多くの方に読んで頂きたいと思います。」

梅原「お金をまともに稼ぐのは大変ですね。最近私がしたいいい買い物は、ユニクロの服です。」

『公共空間』2016 年秋号（通巻第 15 号）

発行人 『公共空間』編集委員会

編集長 多田祐生

編集委員 上野格嗣

梅原知恵

寺田実穂子

中村光寿

野村将生

高畠健一

編集顧問 中西 寛

編集協力 垣本 謙一

京都大学公共政策大学院『公共空間』
編集委員会

住所 〒 606-8051 京都市左京区吉田本町
京都大学 公共政策大学院
(法学研究科事務部)

MAIL k.kukan2016@gmail.com

TEL 075-753-3126

「京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI)」

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

各位

平成29年2月10日

『公共空間』2016年秋刊の訂正とお詫び

京都大学公共政策大学院

『公共空間』編集委員長

多田 祐生

拝啓

この度発行いたしました、雑誌『公共空間』2016年秋刊におきまして、文章に誤りがございましたことをご報告致します。以下のように訂正させていただくとともに、関係者各位ならびにご協力くださった皆様に、多大なるご迷惑をおかけいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

敬具

【該当箇所と訂正】

・P12 2段目13行目～

【誤】なぜエリアマネジメントに力を入れようになったのですか？

【正】なぜエリアマネジメントに力を入れるようになったのですか？

・P12 3段目10行目

【誤】梅田全体の魅力を高めることができないので、

【正】梅田全体の魅力を高めることができないので、

・P14 1段目18行目～

【誤】梅田地区を拠点して経済活動をしている四社が、力を合わせて、梅田地区をわがまちとして、愛着を持って育てる活動を継続して限り、

【正】梅田地区を拠点にして経済活動をしている四社が、力を合わせて、梅田地区をわがまちとして、愛着を持って育てる活動を継続している限り、

・P14 2段目6～7行目

【誤】お客様に快適に回遊性していただくことです。

【正】お客様に快適に回遊していただくことです。

・P14 2段目25行目

【誤】全国エリアマママネジメントネットワーク

【正】全国エリアマネジメントネットワーク

・P15 2段目7～9行目

【誤】共催イベントやパンフレットの広告協賛及び歩道に設置在まちづくりの資金調達の手段とししているバナー広告を活用して、

【正】共催イベントやパンフレットの広告協賛及び歩道に設置しているバナー広告を活用して、

・P15 3段目最終行～4段目8行目

【誤】米国のBID制区内の権利者でお金を出し合って「わが度が導入できればエリア内に建物

を所有する者が納めた税金を利用して街の魅力を高めていくことができます。現実的には、建物所有者全員の理解を得ることは難しいと思われませんが、将来的に梅田地区全体でBID制度が実施されて、地まちを育てる意識」を持って

【正】米国のBID制度が導入できればエリア内に建物を所有する者が納めた税金を利用して街の魅力を高めていくことができます。現実的には、建物所有者全員の理解を得ることは難しいと思われませんが、将来的に梅田地区全体でBID制度が実施されて、地区内の権利者でお金を出し合って「わがまちを育てる意識」を持って

